

# 4 自立活動について

Q : 「自立活動」とは？

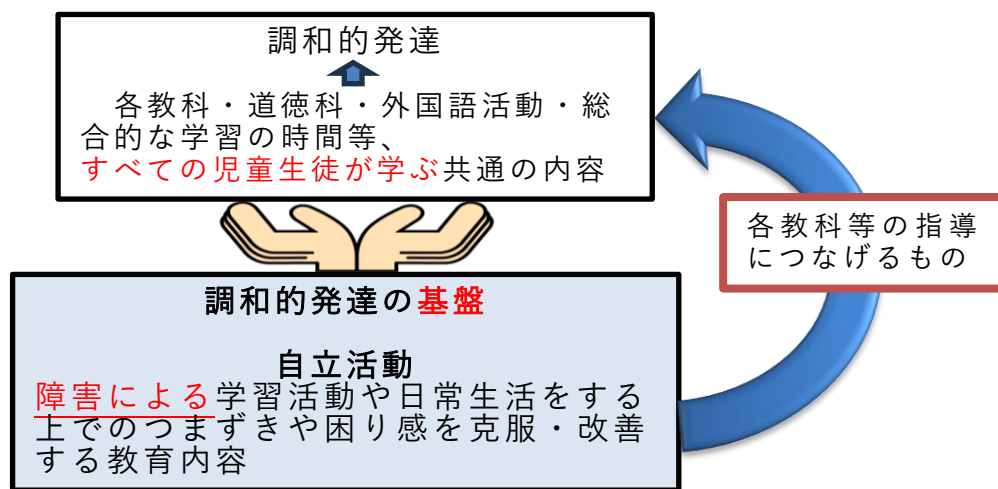
＜自立活動の目標＞（小学部・中学部学習指導要領より）

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって**心身の調和的発達**の基盤を培う。



A : 自立活動は、障害により日常生活や学習場面で困っていることを改善・克服し、「自立し社会参加する資質を養うため」に行う指導とされています。この場合の「自立」とは、児童生徒がそれぞれの障害の状態や発達の段階等に依りて主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きていこうとすることを意味しています。  
「これができたら、このような工夫があったら生活や学習がもっと楽になる、主体的に取り組みやすくなる」という視点を基に、目標及び指導内容を考えていきましょう。

## 自立活動の位置付け



自立活動は、学校の教育活動全体を通じて行うものです。授業時間を特設して行う「自立活動の時間における指導」の他に、各教科等の指導と自立活動の指導内容を関連付けて行います。

【児童生徒の実態把握】

【指導の目標の設定】

【指導内容の決定】

学習指導要領「自立活動の内容」6区分27項目※の中から、必要な項目を選定し、具体的な内容を設定します。

実態把握に当たっては、児童生徒の障害の状態や発達段階等についての的確に把握すると共に、児童生徒の困り感に寄り添い、なぜそのような困り感を抱いているのかを考えましょう。また、困り感だけでなく、得意なことや、本人や保護者の願い、卒業時の目指す姿など多面的に情報を集めて**児童生徒が主体的に取り組める**学習内容を設定しましょう。

※6区分27項目は9Pを参照

## Q : 「指導目標はどうやって立てるの？」

【例】脳性疾患をもつAさん。その障害により、学習や生活する上で、どのような困り感が生じるのか？

◆どんな困り感を抱いているか？（困難さとその背景等）



- 上肢の可動域が狭くて、物を握ったり操作したりすることが難しい。
- たくさん書かれた教科書の文字や図形の中から必要な部分に注目することが難しい。

◆このように改善・克服すると、学びやすく、生活しやすくなるのでは？（設定理由）



- 補助具を工夫してみよう。ICTの活用はどうか。
- 作業療法士（OT）の助言も受けると、一人でできることがもっと増えるのでは？
- 困ったときは、何を困っているのか自分で発信できるといいな。

◆1年間で、ここまでの達成を目指そう。（具体的な指導目標設定）




- ① いろいろな補助具（ICT活用も含めて）から、自分に合ったものを見つけて、使い方を習得しよう。
- ② 教科書の中で注目する箇所が見付けられないときは、具体的に教えてもらおう。自分から依頼できるようにしよう。

◆目標を達成するために、必要な項目を設定しよう。

目標設定の①は、下表の〈自立活動の内容〉の「4環境の把握（3）」に関係し、②は「2 心理的な安定（3）」及び「6コミュニケーション（5）」と関係している。

〈自立活動の内容〉 6区分 27項目

<p><b>1 健康の保持</b></p> <p>(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること</p> <p>(2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること</p> <p>(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること</p> <p>(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること</p> <p>(5) 健康状態の維持・改善に関すること</p>	<p><b>2 心理的な安定</b></p> <p>(1) 情緒の安定に関すること</p> <p>(2) 状況の理解と変化への対応に関すること</p> <p>(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</p>
<p><b>3 人間関係の形成</b></p> <p>(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること</p> <p>(2) 他者の意図や感情の理解に関すること</p> <p>(3) 自己の理解と行動の調整に関すること</p> <p>(4) 集団への参加の基礎に関すること</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p><b>4 環境の把握</b></p> <p>(1) 保有する感覚の活用に関すること</p> <p>(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること</p> <p>(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること</p> <p>(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること</p> <p>(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること</p>
<p><b>5 身体の動き</b></p> <p>(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること</p> <p>(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること</p> <p>(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること</p> <p>(4) 身体の移動能力に関すること</p> <p>(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること</p>	<p><b>6 コミュニケーション</b></p> <p>(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること</p> <p>(2) 言語の受容と表出に関すること</p> <p>(3) 言語の形成と活用に関すること</p> <p>(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること</p> <p>(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>

**Q 「自立活動の学習内容はどんなものがありますか？」**


**A：** 自立活動における指導内容の設定に当たっては、

- ・興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わうとともに自己を肯定的にとらえることができるような指導内容
- ・障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲を高めることができるような指導内容
- ・発達の遅れている側面を補うために、発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容
- ・活動しやすいように自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができるような指導内容
- ・自己選択・自己決定する機会を設けることによって、思考・判断・表現する力を高めることができるような指導内容
- ・自立活動における学習の意味を将来の自立や社会参加に必要な資質・能力との関係において理解し、取り組めるような指導内容

を考慮することが学習指導要領解説に明記されています。

☆本校の「自立活動の時間における指導」で取り組んでいる自立活動の学習内容について、例をあげて紹介します。自立活動の指導区分・指導項目については指導目標を達成するために選定した主なものを載せています。

【自立活動の指導区分・指導項目】

児童生徒名	実態	目標	学習内容
 A子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳性麻痺で手先を使った細かい作業に苦手意識がある。</li> <li>・左手の力が弱く、右手の力が強いいため、定規がずれてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の動きに合った教材を工夫し、繰り返し取り組むことで、自分でできることを増やす。</li> </ul>	<教科学習における定規の活用> ・教科書のアンダーライン引き ・算数／図工／家庭科 ・定規の使い方

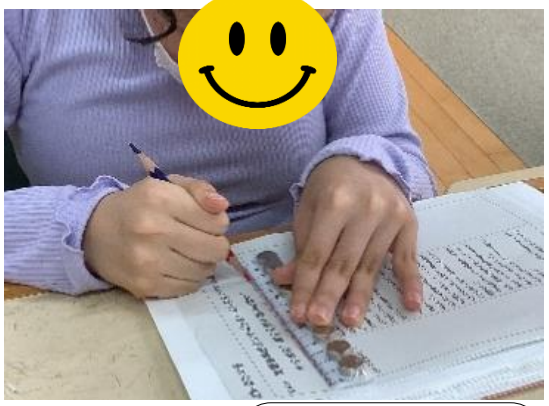
<本人の願い>  
定規で真っ直ぐ線を引きたい！

「身体の動き」○姿勢と運動・動作の基本的技能  
 ○姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること

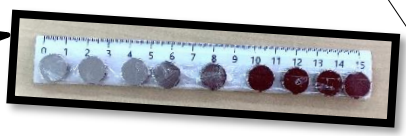
作業療法士(OT)からのアドバイスも参考に！

- ・定規を押さえる左手の位置を定規の真ん中にするのを約束する。
- ・目盛りの位置を意識させ、0を支点にして線を引く練習をするとよい。

<教具の工夫>  
 マグネットを定規の表側に9個貼ったが、磁力が弱く18個貼ることで安定した。



**スチール板などを下敷きにして使います。**



定規自体の工夫と併せて、左手の使い方や目盛りの合わせ方等の練習も頑張っています。